

編集 後記

本号は、特別養護老人ホームにおける身体拘束、新築・改築小学校における室内汚染、抗がん剤取り扱い看護師の職業性曝露、結核菌 RFLP 解析、保健師養成プログラムに関する調査など多彩な内容となった。これは、日本公衆衛生雑誌が現代の日本社会を写す鏡となっていることを示すものであろう。また、研究の方法論も、アンケート調査や既存資料を用いた多変量解析、環境測定、遺伝子解析などと多彩であり、公衆衛生学が他の基礎的分野での研究成果を着実に取り込んでいることを反映しているように思われる。このように、日本公衆衛生雑誌はわが国の公衆衛生学研究者が今日の公衆衛生・社会医学の直面する問題点に正面から取り組もうとしていることの証となっている。しかし、研究成果を基に、研究者がどこまで政策提言をすべきか、また、それがどこまで可能かに関しては、研究者によって見解が異なるように思われる。最近、注目されているアスベスト曝露とその健康影響に関する問題も、この点をあらためて我々に問いかける結果となったように思われる。国立大学の独立法人化に伴い、大学を取り巻く環境は大変厳しい状況となりつつあり、地味ではあっても社会にとって重要な意義を孕む基礎的研究を続けることが困難になるのではないかと危惧の声が多い。公衆衛生学・社会医学研究の分野でも、生活習慣病、グローバルな環境破壊など、陽の当たりやすい分野以外の研究は困難な時代を迎えつつあるのかもしれない。しかしながら、社会がともすれば目を向けるのを忘れがちな問題に公衆衛生学の先達に取り組んできたことを再度思い返し、国際的に有名な学術誌には採用されにくくとも、我々が取り組まなければならないテーマが少なくないと、本誌を読みながらあらためて感じた次第である。 (秋葉澄伯)

次号予告 (第52巻・第9号)

原 著

国内 3 都市における夏期の日最高温度と個人別曝露温度……………兜 真徳, 他

短 報

歯科患者の喫煙への継続的介入に伴う禁煙ステージの移動……………小島美樹, 他

資 料

転倒予防活動事業における高齢推進リーダーの特性に関する研究……………島貫秀樹, 他

横浜市における救急車利用に関する市民意識調査……………川上ちひろ, 他

自治体区分別にみた健康日本21地方計画における数値目標策定状況……………片野田耕太, 他